TTC 提案山行実施記録　　[2017 年 7 月 23 日　T.S　報告]

山行名	十勝岳・羊蹄山　　[北海道]2077m/1898m　(1/2)
実施日	2017 年 7 月 14 日[金]～17 日[月]　3 泊 4 日
レベル/参加人員	レベル：★★★★(相当健脚向き)　　参加人員：申込 8 名/実施 6 名（男性 4 名、女性 2 名）
パーティスタッフ	CL：　SL：　会計：　、救護：　、写真：　食当：
参加メンバ	
費用 **1 人当たり：** **約 68,700 円/人** （厚木発着ベース） **カンパ金：557 円**	**【関東での発生費用】** ﾏｲｶｰ使用料：140km*@10=¥1,400、ﾄﾞﾗｲﾊﾞ謝礼(往復)：¥5,000、燃料代：140km/5*@120=¥3,360、高速道路代(狩場新保土ヶ谷 IC～浮島 IC:往復：¥1,860、ｻﾝﾊﾟｰｷﾝｸﾞ駐車料：¥5,920、ﾃﾝﾄ・寝具・登山靴等宅急便代：:¥4,136 **【航空券代】** 羽田～旭川：@17,290*5 名=¥86,450、新千歳～羽田：@23,790* 5 名=¥118,950) **【北海道での発生費用】** ﾏｲｶｰ使用料：650km*@10=¥6,500、ﾚﾝﾀｶｰ代(旭川空港～新千歳空港、4 日間)：¥36,072、燃料代：@130*650km/8（山下号）¥10,560+ﾚﾝﾀｶ¥3,606=¥14,166、ﾄﾞﾗｲﾊﾞ謝礼：@5,000*2 日*2 台=¥20,000、高速道路代(三笠 IC～小樽 IC:@1750*2 台=¥3,500、小樽 IC～千歳 IC：@1480*2 台=¥2,960)、宿泊代(吹上温泉　白銀荘前キャンプ場：@500*2 張=¥1,000、羊蹄山避難小屋：@1000＊6 名=¥6,000、ﾎﾃﾙようてい(素泊まり)：@6700*2 名+@6200*4 名=¥38,200)、ｶﾞｽｶｰﾄﾘｯｼﾞ：@500*3 個=¥1,500、入湯料：（白銀荘@600+陵雲閣@800)*6 名=¥8,400、通信料：¥1,000、ｶﾝﾊﾟ金：¥557　⇒1 人当たり費用：約¥68,700（厚木発着ベース） （上記費用には、現地で発生した食材費、飲料費、飲食代等を含めていない）

歩行時間/行動時間

	7/15[土]			7/16[日]			7/17[月]		
	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動
ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ	7:15	－	－	4:20	－	－	5:00	－	－
計画	7:20	1:50	9:15	4:20	1:05	5:25	5:10	1:15	6:25
実績	7:35	1:50	9:25	4:53	1:10	6:03	5:39	1:01	6:40

歩行時間率(実績/計画)：7/15[土]=103%　　7/16[日]=113%　　7/17 [月]=109%

実行コースタイム記録

7/14[金]　[ADO 081 便]　(食料等買出)

市内各所ﾋﾟｯｸｱｯﾌﾟ===ｻﾝﾊﾟｰｷﾝｸﾞ浮島===羽田空港===旭川空港====空港ﾚﾝﾀｶ====　ぜるぶの丘===ｽｰﾊﾟｰふじ===

3:30-4:10　5:00-20　5:30-6:40　8:25-45　9:00-9:20　9：30-45　9:50-10:25

ﾚｽﾄﾗﾝ ﾎﾋﾞｯﾄ(昼食)===青い池=====白銀荘前ｷｬﾝﾌﾟ場泊

10:35-11:50　11:55-12:30　12:50

7/15[土] 1:00(休 3')　19'　57'(6'休)　48'　15'　1:00(15'休)

白銀荘---雲ノ平分岐---十勝岳避難小屋---昭和噴火口---頂上直下前十勝ｺｰｽ分岐---十勝岳山頂---上ﾎﾛ小屋---

3:00 起床-4:03　5:06　5:25-35　6:38-55　7:43-50　8:05-25　9:40-50

25'　17'　1:28(9'休)　48'　18'

---上ﾎﾛｶﾒｯﾄｸ山---かみふらの岳----ｶﾐﾎﾛ分岐---三段山分岐---十勝温泉凌雲閣(入浴)===三段滝===ﾎﾃﾙようてい泊

10:15-28　10:45　12:22　13:10　13:28-14:15　15:30-38　19:30

7/16[日]　1:00(5'休)　43'(15'休)　35'　35'　35'　1:00　25'

ﾎﾃﾙようてい===半月湖野営場---2 合目----4 合目---5 合目-----6 合目----7 合目----9 合目---羊蹄山避難小屋泊

5:00 起床-6:40　6:55-7:07　8:12-22　9:20-30　10:05-10　10:45-11:00　11:35-45　12:45　13:10

7/17[月]　25'　52'(5'休)　55'　47'　55'　38'　1:07

羊蹄山避難小屋---9 合目分岐---羊蹄山山頂---9 合目分岐---7 合目---5 合目---3 合目---半月湖野営場===

3:50 起床-5:00　5:25-28　6:25-40　7:35-45　8:32-40　9:35-45　10:23-33　11:40-55

[SKY ﾏｰｸ 726 便]

===ﾎﾃﾙようてい(入浴)===小樽(昼食)======新千歳空港====　羽田空港===ｻﾝﾊﾟｰｷﾝｸﾞ浮島===本厚木

12:10-13:30　14:40-15:45　16:45-19:20　21:30 頃　22:00 頃　23:00 頃

コースの概要、特記事項、反省事項等

経緯および概要　2014 年度末に定年退職を機に地元北海道に戻るために退会された YO さんからは、「北海道の山行が設定されれば、可能な限り参加したい」という話をいただいていたが、昨年度はその機会がなく本年度は何とか設定したいとの思いがあった。年間山行計画に織り込んで連絡すると早速、参加のオファーがあり、更に 2014 年度期中に退会された

M 夫妻(TTC20 周年記念イベント山行後、復会)も参加していただけることになって、力強い助っ人を得て　(2/2)
実行の運びとなった。

7/14[金] 晴れ　早朝出発であり、SKさんのマイカー提供によりそれぞれの自宅近くにピックアップに回っていただいて羽田空港に向かった。予定していたフライトも定刻通りに運行されており旭川空港に到着後、空港近くのレンタカ会社で YO さんと合流して全て順調にスタートした。本日は宿泊先の吹上温泉までの移動のみで、時間的余裕がタップリある。YO さんの案内で美瑛にあるラベンダーや向日葵などの花々が咲き乱れる「ぜるぶの丘」を散策し、「自家製ハム・ソーセージレストラン:歩人(ホビット)」で昼食後、比較的最近になって注目を浴びるようになったという「青い池」の散策をのんびりと楽しんだ。途中のスーパーに立ち寄って食料や飲み物を買い込んで、それでも宿宿先には 13 時前に余裕で到着した。手違いがあって白銀荘には宿泊できないが、ジリジリとした日差しで暑過ぎるという不満が出るほどのキャンプには絶好な日和の中で、白銀荘の前にある青々とした芝生のキャンプサイトにテントを張った。翌日の下山口である十勝温泉陵雲閣に車を1台移動後、白銀荘温泉で汗を流してサッパリした。これも YO さんの推薦と肌理細かい準備をしていただいたジンギスカン鍋を頂きながら、充分過ぎると思われたアルコールを全て平らげて、翌日の早朝出発を考慮し遅い人でも 19 時頃にはシュラフにもぐり込んだ。

7/15[土] 晴れ　絶好の登山日和に恵まれ、警戒レベル 1 に設定されているという十勝岳の噴煙が登山口からもよく見える。噴煙量や風によるたなびきも昨日に比べてかなり少なくなっており、穏やかな状態であることが伺える。山容はなだらかで歩きやすいが、樹木が少なく強風に見舞われると厳しい歩きになるであろうことが想像できる。十勝岳にはいくつもの登山コースがあるが、ET さんより推薦していただいた『吹上温泉から十勝岳温泉に周回するコース』を選択した。時間的余裕があれば富良野岳まで足を延ばせば、更に素晴らしいお花畑に遭遇することができるという。山頂直下のやや険しい岩場を登るとあと一息であり、山頂では 360 度のパノラマビューを堪能することができた。下山路では前十勝にある火口からの“噴煙”や、人を寄せ付けない荒々しい“三段山”や、青々とどっしりとして美しい“富良野岳”を間近に見ながらの山歩きを存分に楽しみ見ながら、ほぼ予定通りに十勝温泉に下山した。陵雲閣で汗を流してから、約 250 kmの車での移動後、倶知安の居酒屋で本日の労をねぎらい合った。

7/16[日] 雨のち晴れ　半月湖野営場を出発して暫くの間は雲間から青空が見えたりして、このあと雨模様との予報が良い方向に外れるのではないかというような期待を抱かせたが、3合目を過ぎた辺りからパラパラと降り始め、雨具を装着した。標高を稼ぐにつれて雨足は強まってきて、本日の登頂を断念して下山してくる何組かのパーティとすれ違った。9合目以降のお鉢巡りを敢行してもほとんど期待できるものはないどころか、濡れて滑りやすくなった岩場の歩行や、視界が利かなくなった状態での歩行が想定され、この日は避難小屋止まりにすることをメンバの合意を得て比較的早い段階で決断した。
避難小屋の管理人さんの話によると、この日は非常に多くの登山客が利用する連絡を受けているとのことであったが、実際にはこの雨の中を登ってくる人は我々のあとは数名しかおらず、充分なスペースを確保することができた。濡れたウエアを着替え、部屋の片隅で夕食の準備を進めていると天候が急激に回復してきて、小屋の外に移動してお酒を酌み交わしている頃には青空が広がって、眼前のニセコアンヌプリや雲海の先に広がる遠くの山々を満喫することができた。小屋で待機していた登山客が何組か山頂を目指して動き出したが、その頃には我々はアルコールがすっかり回っていて観念するしかなかった。

7/17[月] 晴れ後曇り　避難小屋から山頂までの往復をこの日に振替えたことから日程がタイトになるため、1時間半前手繰りで行動を開始した。お鉢巡り(約 2/3 周のピストンに変更)は、主火口の父釜(直径 700m、深さ 200mもある)および側火口(母釜、子釜)もよく見える。山頂では雲海の広がりを360度感じながらの遠望を存分に楽しむことができた。結構苦労して登ってきた感があったが、このような感動を味わうことができるから、山登りはやめられないと改めて感じた。この日は10時頃から雨模様の予報であったが、降られることなく下山できたのは幸いであった。昨晩宿泊したホテルで入浴(無料)してパッキングを終え、小樽で海鮮丼のご褒美に舌鼓を打ち、新千歳空港で同行いただいた YO さんと名残を惜しみつつ再会を約束して、15分ほど遅れたフライトに搭乗して無事に帰着した。

まとめおよび反省

●自動車で約 250 km離れた場所への移動を伴う2座の山行として計画した。無理であったとは思わないが、2日目(7/15[土])の日程はかなりタイト感があったことは否めない。この2座を組合せることは必ずしも良い選択ではなかったかもしれない。
●3日目(7/16[日])の羊蹄山の登りは登山開始後しばらくすると雨になり、同日内の登頂を早々に断念して避難小屋止まりに変更した。その分、最終日(7/17[月])の日程が厳しくなったが、メンバの協力によって柔軟に対応することができた。
●「車での長距離移動を伴う2日目」および「避難小屋～羊蹄山山頂までの往復を移行させた4日目」は特にタイトなスケジュールとなって、後ろの時間が常に気になった。登山道の歩きのみならず車での移動時間等も含めて、煽るような態度が出てしまったように思う。「いつまで経っても修業が足らん！」と改めて反省している。
●メンバがそれぞれの役割を果たしながら素晴らしいチームワークを発揮できたと感じているが、その背景には、現地北海道から参加いただいた YO さんの事前調査に基づく多くの情報協提供やいろいろと具体的な準備をして戴いたことが間違いなくあった。参加されたメンバの皆さまに、心より感謝申し上げたい。

— 以上 —